

みすまいざんこうふくいん
浄土宗 簾舞山光福院
 だいしようじ
大松寺



所在地：北海道札幌市南区藤野2条11丁目8番8号
 建築面積：1,116.89㎡
 延床面積：2,029.22㎡
 構造・規模：RC造一部S造、地上2階建
 設計：(有)アトリエ本間建築工房
 施工：建築／森川・ミチシタ共同企業体
 電気／(株)でんこう
 完成：平成21年6月

開基以来百余年を経た浄土宗の寺院。

開基100年記念事業として新寺院建立を計画。照明は、省エネタイプの光源を採用し、効果的に演出しています。

教義を意識した意匠を随所に取り込んだ
 現代風の寺院建築

明治41年に札幌市簾舞地区住民有志の懇請と協力により説教所として建立された大松寺は、開基100年記念事業として移転・新築を計画されました。

新しい建物は2階建てで、平面が正方形の2つの建物を中央の共用部でつなぐ構造となっており、1階左側は庫裡、右側は客殿、2階の左側は納骨室、右側は本堂と明確に機能分けされています。建物の意匠には浄土宗にちなんだ「三」が随所に取り込まれ、外装は化粧をしない人間の素の状態・心で寺に入って欲しいという寺側の要望により、コンクリートの打ち放しが採用されています。

コンクリートと和風建築が融合した空間を
 効果的に照明

2階本堂は、コンクリートと木造の和風建築が融合した天井高さ5mの広々とした空間で、外陣の格子天井に57Wコンパクト形蛍光灯ダウンライト9台を均等配置。内陣に安置されたご本尊は、正面の70Wネオハロビームユニバーサルダウンライトと両脇の60Wハロゲンランプスポットライトにより照らし出し、読経の際は外陣側の照明を消灯して、外陣両側の廻廊側の間接照明のみを点灯して、効果的に演出しています。

納骨室は、主通路両側に納骨壇がくし型に配置されています。納骨壇間の通路はHf32W1灯用逆富士器具を2台ずつ整列配置し、納骨壇側面の壁には電球形蛍光灯用ブラケットを1台ずつ設け、主通路奥の御内仏へ続く厳かな空間を演出しています。

1階右側の法事や家族葬に使われるホールは、低さを感じさせないよう折上げた天井中央部に32Wコンパクト形蛍光灯3灯用埋込スクエア器具4台を均等配置し、周縁部に24Wコンパクト形蛍光灯ダウンライトを配置。正面奥の御内仏手前の半円形折上天井内には32Wコンパクト形蛍光灯間接トラフ器具を採用し、御内仏上部のHf32W1灯用片反射筒器具による照明と合わせて、御内仏を明るく浮き立たせる効果を得ています。



本堂外陣の照明 読経が行われる際には天井のダウンライトが消灯され、両脇の障子の上の間接照明と内陣、ご本尊の明かりのみ点灯される



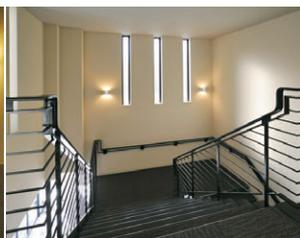
ユニバーサルダウンライトとスポットライトで効果的にご本尊を照らし出す内陣の照明



法事や家族葬などに使用されるホールの照明



ゆったりした通路で落ち着いた雰囲気
 の納骨室



浄土宗にちなんだ「三」を意匠に取り
 込んだ階段室



エントランスホールの照明

主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	備考
屋内	笠なし器具	FHT-41007N-PM9	26	32WHF蛍光灯ランプ
	直付器具	FHT-41311-PM9	24	32WHF蛍光灯ランプ
	埋込スクエア器具(カバー付)	FHR-33326K-PD9	4	32Wコンパクト形蛍光灯ランプ×3
	直付間接トラフ器具	FHT-31009N-PR9	11	32Wコンパクト形蛍光灯ランプ
	ダウンライト	BFD20823S(W)EL	50	25Wタイプ電球形蛍光灯ランプ
	ダウンライト(金色塗装加工)	FHD-51001-PM	11	57Wコンパクト形蛍光灯ランプ